

IoT 時代に向けた半導体 200 mmラインの活用 -

NEDO 平成 27 年度 「国内半導体製造ラインの実態調査、及びその有効活用法の検討」 報告

Utilization of semiconductor 200 mm line for IoT era - NEDO FY2015 "Survey on the actual situation of domestic semiconductor manufacturing lines and examination of effective utilization methods" Report

みずほ情報総研(株)¹ ○入江 康郎¹, 石原 範之¹Mizuho Information & Research Institute, Inc.¹, ○Yasuroh Iriye¹, Noriyuki Ishihara¹

E-mail: yasuroh.iriye@mizuho-ir.co.jp

1 はじめに

本調査においては、国内半導体製造ラインの状況、ファンドリー・サービスの利用実態、要望について調査を実施し、IoT 関連機器向けの半導体デバイスや多品種少量生産等へ再活用するための条件など国内半導体製造ラインの有効活用法を検討した。

2 調査

200mm ラインの日本の生産能力は世界最大であり、特にディスクリート、アナログ、ロジック対応の生産能力は世界有数である。しかしながら、受託生産としての 200mm ラインは多くない。このような中、国内半導体製造ラインにおける現状の課題は Fig.1 のようになる。また、国内半導体製造ラインを有効活用するための案を Fig.2 に示す。



Fig.1 半導体製造ラインの有効活用に向けた現状の課題

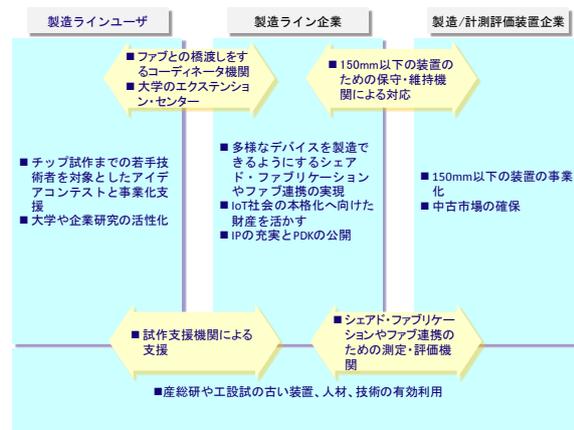


Fig.2 IoT社会の実現に向けた半導体製造ラインの有効活用

3 おわりに

近い将来、本格的な IoT 社会が実現することが考えられ、IoT 社会が成長するまでの期間、ビジネスが大きくなるまで、半導体製造ライン等の業界は、その財産を活かして、準備を進める時期であると考えられる。つまり、今ある資源を有効活用し、将来に備える必要がある。

謝辞：本調査を進めるにあたり、有識者委員会でご議論頂きました委員長東京工業大学益教授はじめ委員の方々に心から感謝の意を表します。

この成果は、NEDO の委託業務「低炭素社会を実現する超低電圧デバイスプロジェクト 国内半導体製造ラインの実態調査、及びその有効活用法の検討」の成果である。